

いわせ

第79号
退職校長会
支部
発行
須田元大

就任の御挨拶

須田元大



この度、令和七年度退職校長会岩瀬支部総会役員改選において、渡邊真二前支部長の後任として支部長に推戴いただき就任いたしました。諸先輩方が充実・発展させてきた岩瀬支部は現在、会員数一七名（令和七年現在）の団体であります。

私は、本会の目的である「会員相互の旧交を温め、生活の向上を図るとともに地域教育の向上に資する」ために、また本会が持続可能な団体として存続し続けることができよう、役員や理事の皆様とともに努力して参る所存です。会員の皆様におかれましても、ご意見・ご要望等がございましたら遠慮なく各役員・理事にお話しただければ幸いです。

さて、本年度の総会において承認いただいた事業の中で特に本会の目的に沿っているのが、八月に予定している「退職現職校長研修会・懇親会」です。研修会では、退職校長と現職校長をグループに分けて今の学校が抱える課題等について同じ目線で話し合いを行います。その後の懇親会では、先輩や後輩と思い出話に花を咲かせたり、他地区と一緒に仕事をしたりと旧交を温めたり、現況を報告しあったりするコロナ禍以降減少してしまつた貴重な交流の機会です。たくさんの方の皆様の参加をお待ちしております。

令和七年度支部総会
四月十二日（土）に、令和七年度福島県退職校長会岩瀬支部総会が、須賀川市教育研修センター二階の研修室において開催されました。

ご来賓として、須賀川市教育委員会教育長の永瀬功一様、地区小・中学校長協議会会長の酒井宏尚様のご臨席をいただきました。

昨年度の物故者七名への黙祷が捧げられた後、渡邊真二支部長から挨拶があり、新会員四名が紹介され、代表で熊田順一郎様からご挨拶をいただきました。今年度は、百十七名の会員でスタートしました。

議事では、議長に川崎勝久氏を選出し、令和六年度庶務・会計報告、令和七年度の事業計画・予算案等が満場一致で承認されました。

また、今年度は役員改選が行われ、新支部長に須田元大様が選出されました。新役員は、本紙面に掲載されております。



- た役員・理事の皆様には、永らくご尽力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。
- 令和七年度支部事業計画
- ① 総会の開催（四月）
 - ② 県退職校長会会津大会（六月）
 - ③ 広報「いわせ」発行（年二回：七月、十二月）
 - ④ 退職・現職校長研修会並びに懇談会（八月）
 - ⑤ 研修会の開催（功績調査作成の促進、研修行事）（八月）
 - ⑥ 教育委員会訪問（八月）
 - ⑦ 十七字作品集作成委員会（九月・十月）
 - ⑧ 会員の健康増進、相互の交流・親睦を図る活動
 - 「ゴルフ」、「グラウンド・ゴルフ」の二クラブの活動
 - 社会貢献、各種ボランティア活動の推進
 - ・ 子どもの祭典でのブース出展
 - ⑨ 全国及び県事業への協力
 - ⑩ 役員会、理事会、広報委員会、功績調査作成委員会の開催（随時）
- ※「囲碁クラブ」は活動休止となっております。

令和七年度 岩瀬支部役員

顧問

川田 昌利 八木沼智恵子
鈴木 和一 渡邊 真二

支部長

須田 元大

副支部長

薄井 英一

監事

石山 晃司
佐藤 和則

庶務

熊田順一郎

会計

大河原正道
遠藤 彰

理事

善方 威浩
高木 正宏
内山 博行
渡邊 真二
須田 元大
古田 浩
春山 晃祥
小貫 崇明

広報委員

熊田順一郎
大河原正道

功績調査作成委員会

熊田順一郎
大河原正道

「十七字のふれあい」事業

岩瀬地区審査委員

古田 浩

本多 淳嗣

内山 博行

関根 勝志

佐藤 和則

善方 威浩

渡邊 真二（県）

教育特集

「悪い知らせほど早く」

岩瀬地区小・中学校長協議会長 会長 酒井 宏 尚

私は現在、中学校の校長として学校運営に携わっており、県中教育事務所での勤務経験が今の私の学校経営に大きな影響を与えています。その中でも、「悪い知らせほど早く」という言葉が特に印象に残っています。この言葉は、教育事務所での問題が発生した際に、いち早く事実を把握し、迅速に対応することの重要性を強く感じさせてくれました。

教育事務所では、地域の学校に関する様々な問題に対応していた中で、予期せぬ事態や緊急事態に直面することがありました。そのたびに「悪い知らせほど早く」という方針を徹底し、問題が小さなうちに対処することの大切さを学びました。事態が悪化する前に迅速に対応することで、影響を最小限に抑えられると実感しました。この教訓は、現在の学校運営にも強く反映されています。

校長として心掛けているのは、問題が発生した時に、そ

の情報をすぐに関係者と共有し、初期対応を迅速に行うことです。例えば、生徒の安全に関わる事態や保護者からの苦情、校内のトラブルが発生した際には、即座に教職員間で情報を共有し、必要な措置を講じる体制を整えています。問題が小さいうちに早期に対応することで、問題の拡大を防ぎ、生徒や保護者にとって安心できる環境を提供しています。

また、保護者や地域の方々の信頼関係を築くためにも、問題発生時には速やかに説明し、対応策を伝えるよう努めています。透明性を持つて情報を提供することで、学校全体で一丸となつて問題解決に向かうことができます。

「悪い知らせほど早く」という教訓は、教育現場において非常に大切だと感じています。今後も早期発見と迅速な対応を通じて、安全・安心な学校づくりに邁進してまいります。

「六年生の好奇心」

須賀川市立第一小学校 校長 柿沼 孝 明

校長室を訪ねてくる子どもたちは、珍しいものはないかと興味津々です。そんな子どもたちの知的好奇心メーターがぐんと上がるものがあります。

校長室の壁に掲げられた「幼而學壯而行」の書です。木戸孝允公の直筆の書であり、明治九年、明治天皇に随行して来県された折に本校が賜ったものです。この「幼而學壯而行（幼にして学び、壮にし

義務教育学校として

須賀川市立義務教育学校 稲田学園校長 田中 朗 裕

本校に赴任して二年目を迎えました。本校は、須賀川市初の義務教育学校として開校し、今年度で五年目を迎えました。教育目標に「やさしくかしこく、たくましく、未来を拓く 稲田の子」を掲げ、九年間の系統的・継続的な学びを通して子どもの育成に取り組んでいます。

九年間同じ校舎で学ぶことができること、様々な交流活動を通して、優しく後輩に接

て行う」という言葉には、幼き頃の研鑽や学問は、大人になってからの行いにつながっているという示唆があります。「木戸孝允さんってだれ？」と質問する子どもたちが、六年生になり、社会科で明治維新を学ぶと「校長先生、授業で名前が出てきたよ。」と飛び込んでくるわけです。

西郷隆盛、大久保利通とともに維新の三傑の一人とされていることを誇らしげに披露する

る子どもたちに、私も「なるほど、なるほど。」と返し、さらには「ところで、幕末のころは別の名前だったらしいよ。」と振ると「それ以上言わないでください。調べてきます。」と退室します。

翌日、幕末の志士として活躍し、会津藩ゆかりの新選組と対峙した、長州藩の桂小五郎と同一人物であることを誇らしげに明かす子どもたち。毎年、六年生とのお約束のやり取りが、楽しみで仕方がありません。

感じられる大きな魅力であると感じています。

現在、本校は「働き方改革」に加え、「やりがい改革」を推進しています。学校が教職員の「思い」や「願い」があふれた場所になり、教職員が楽しく、「やりがい」を感じて働く姿を見せることで、夢に向かって努力し、主体的に未来を拓こうとする児童生徒の育成につながると考えたからです。今後も、義務教育学校の「強み」を生かしながら、よりよい学校づくりに励んでいきたいと思っています。

会員の近況

喜びに感じていること

菅野 哲哉

三月末で前職を退き、学びの共同体スーパバイザーとして依頼のあった学校に出向き、授業づくりと学校づくりを支援しています。現在、郡山市やいわき市、会津若松市、三春町など、県内の学校への訪問が中心ですが、夏以降は県外の学校や日本を飛び出し海外の学校の支援にも出向く予定です。

おかげさまで多くの学校、行政等からお声がけをいただき、四月以降は休みなく働いています。協同的な学びによる授業づくりと学校づくりはこれほどまで注目されているのかと驚くと同時に、学校に出向きコンサルテーションを進めていくことに責任の重さを痛感しています。わずかな月ですが、授業で子どもが変わった、学級が変わったという嬉しい出来事に、担任の先生、学校の先生方と喜びを共有し合う瞬間にも立ち会えました。

来年冬に開催される「学びの共同体全国大会」においては、図らずも要職を任せられ

した。全国の先生方や研究者の方々と交流する機会も多くなりました。今なお学び続ける環境にいられることに大きな喜びを感じています。

「好奇心

自立で八十路やせ我慢」

柴山 進

人の生き方はその人の価値判断つまり人生観であるからひとり老人が高齢期を紡ぐ上で独創的でもかまわない。そこでは創造的な自己マネジメント（経営管理）が求められる人生となるようである。さらに高齢とはいえ、何事

にも実践力、そして情熱（パッション）が不可欠なことは言うまでもない。

即ち、好奇心を抱き自立的な人生を心掛けなければならぬと考えるようになって川柳のようなタイトルを口ずさんでしまったのである。

人間社会には「癒し、絆」など心に沈み込んだ負の感情つまり「しよぼくれ」のような嫌悪感を払拭する手段をもっているが一方自然界に目をむけると寒風吹きささぶ中、体温を維持するため必死にえさをさがす野鳥や道端の凍りついたエサの溶けるのをじつと待つ小動物たちをみる。それは自然の摂理とでもい

うべき「ことわり（理）」を我々に伝えてくれるのである。

死ぬまで生きるぞ

力丸 次雄

東日本大震災の年に四カ月遅れでやっと定年退職を迎えることができました。あれから十四年、もうすぐ後期高齢者の仲間入りです。これが最後の執筆になると思います。

私は定年前に受診した検査で大腸ポリープが見つかり、癌ではありませんでした。あと少しで大腸癌になるところでした。そのため定年後は毎年日帰りドックを受けている。また、五年ほどで三回も癌になってしまいました。

一回目は前立腺癌です。定年後数年で微妙にPSAが上がり、最終的に癌が見つかり、医大で全摘手術を受けました。二回目はその四年後に声が出にくくなり、喉頭癌で放射線療法と抗癌剤で何とか切り抜けました。血痰が出た時はさすがに死を覚悟しました。

三回目はその翌年です。突然真っ赤な血尿が出て、検査の結果、膀胱癌でした。全身麻酔で癌を切除しました。

お陰様で今のところ再発も転移もなく、毎日晚酌を楽しみ、鮎釣り、テニス、野菜作りも続けています。ありがた

いことです。感謝、感謝！

「モノより思い出」

佐藤 正幸

「モノより思い出」。数年前の某自動車メーカーのCMキャッチコピーである。文字通り人生はモノやお金じゃないよ。大事なものは心だよ。大切な家族友人とどれだけ豊かな時間、関わりを持つことができたかこそが人生の最大の価値であるという意味だと思ふ。尤である。しかし日常ではモノ、お金はMUSTである。衣食住から趣味に至るまであらゆるものにお金はかかる。やはり思い出よりモノ、お金か。先日孫が描いた似顔絵をプレゼントされた。絵は稚拙であるが何とも暖かい雰囲気。滲みでて観ていて心が癒された。これはお金には代え難い体験である。改めて身の回りを振り返るといろいろ

なところ、幸せを感じる一瞬があることに気付いた。家族や友人との何気ない会話、野鳥の鳴き声、雨あがりの樹木の緑。サイクリング後の疲労困憊で飲むビール。たとえ小さなことでも日常には満足感、幸福感を味わうことのできる材料が溢れている。さらなる幸せセンサーの性能アップに努めていきたい。

「日々是好日」

森合 義衛

須賀川一中で定年退職し、市教育センター指導主事として一年六ヶ月教員研修に携わった後、二期六年間須賀川市の教育長を務めさせていただきました。その間、退職校長会の皆様方をはじめ現職校長会の方々には、本市の教育行政振興に対する格別のご理解とご支援を賜り、本当に有難うございました。心より深く感謝申し上げます。

昨年九月末で退任後の十月からは、趣味の「けいこ」に日々励んでおります。「けいこ」と言っても、習い事などの「稽古」ではなく、唯一無二の同居人「恵子」の笑顔を求めて獅子奮迅する毎日です。掃除・洗濯は勿論のこと、料理や庭の手入れなど、これまで妻がすべてを担っていた家事全般を肩代わりすることで、感謝の気持ちを伝えたいと考えています。しかし、現役時代の準備不足・稽古不足のまま幕が上がってしまった、家事への無知さが露呈するとも思に、その奥深さに驚嘆しつつ悪戦苦闘する日々が続いています。一日も早く「けいこ」師匠から認められるよう精進します。

県大会報告

第五十九回福島県公立学校退職校長会 会津大会の記録

六月十日（火）、南会津町の御蔵入交流館において、福島県公立学校退職校長会会津大会が行われました。岩瀬支部からは、4名が代表して参加いたしました。

午前中は、「米焼酎ねっか只見で生き抜く」と題して合同会社ねっか代表 脇坂斉弘氏が講演を行いました。

午後の体験発表は、伊達支部、田村支部、双葉支部の3支部が行いました。趣味を追究されている方や、支部の現状と課題について考察した内容等すばらしい発表でした。大会運営に当たられた南会津支部、そして会津地区の皆様、誠に感謝申し上げます。

告とい
上げ報
謝申し
様に感
区の皆
会津地
そして
支部、
大会運
容等す
状と課
究され
支部の
趣味を
追究さ
られている
方々、支
部の現
状と課
題につ
いて考
察した
内容等
すばら
しい発
表でし
た。



クラブ活動計画

ゴルフクラブ

退職校長会ゴルフクラブは、「健悠会」として近隣のゴルフ場を中心に、

月一回のコンペを開催（平日）し活動しています。今年度も五月からスタートし、二回のコンペを実施しています。天候にも恵まれ、好プレーや珍プレーが出るなど、楽しく活動することができました。



毎回十五名程度でのコンペ開催となっています。新たに参加される会員の皆様を歓迎します。事務局までぜひ連絡をいただければと思います。

また、八月下旬には、現職校長との懇親コンペを予定しています。昨年度は台風の影響により中止となっていました。楽しみにしています。

るコンペの一つです。実施期日は決定次第連絡いたします。

○五月二十日 宇津峰CC

優勝 富永 庄子
準優勝 久保 直紀
三位 阿部 昭光

（十七名参加）

○六月十七日 白河国際CC

優勝 菊池 進
準優勝 岡部 昭彦
三位 久保 直紀

（十三名参加）

○七月二十九日 矢吹ゴルフクラブ

○九月中旬・十月中旬にコンペを予定

（菊池 進）

グラウンド・ゴルフクラブ

地域の活性化を図るとともに、会員相互の親睦と健康づくりを育むことを目的としたグラウンドゴルフの大会が多く開催されています。

「いつでも、どこでも、だれとでもできるスポーツ」として準備やルールも簡単で、高齢者の体力づくりの第一位はグラウンドゴルフと言っても過言ではないでしょうか。

今年度も東コミュニティセンターの協力で月二回、第二、

三水曜日、午後一時から三時頃までの約二時間、開催することとしました。

クラブを握り、ボールを見つめ、ホールインワンをした時の喜びは最高です。

プレーの合間や休憩時間の会話はお互いの情報交換などで楽しさを増やしてくれます。

これからも仲間とのつながりを大切に、会員相互の親睦と健康づくりを育むよう努力して、元気で充実した生活を続けたいものです。

年々会員が少なくなり寂しい限りです。新入会員の参加や飛び入り参加も大歓迎です。ぜひ多数のご参加をお待ちしております。

（吉田 尊夫）

賀寿・賀詞

おめでとございます

賀寿

角田 俊朗 様

（昭和五年五月二十二日生）

賀詞

川田 昌利 様

（昭和十二年五月二十七日生）

須田支部長と安田庶務が御自宅を訪問し、御本人に賀寿賀詞をお届けしました。

お悔やみ
申し上げます

故 西間木 清氏

（享年九十二歳）

令和七年六月十一日ご逝去

元福島県立平商業高等学校長

新入会員紹介

熊田 秀和 様

前須賀川市立仁井田小学校校長

熊田 順一郎 様

前須賀川市立第三小学校校長

中潟 宏昭 様

前須賀川市立仁井田中学校校長

水沼 栄寿 様

前鏡石町立市第二小学校校長

あとかき

第七十九号の発行にあたり御多用の中、原稿をお寄せくださいました皆様方に心より御礼申し上げます。今年度から広報担当となり、不安の中での編集作業となりましたが、皆様方の御支援により、予定通り発行することができました。感謝申し上げます。

暑い夏に向かう中、どうか、御健康には十分留意され、お過ごしください。